

◆巻頭言◆

現在の世界情勢の中で思うこと

熊本県保健環境科学研究所長 廣畑昌章



昨年度に引き続き全国環境研協議会（以下「協議会」とします。）の会長を務めさせていただいております。熊本県保健環境科学研究所の廣畑です。ここ10年ほど2年続けての会長就任は例がなかったようですが、引き続き本協議会の発展のために精一杯努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、本誌のVol. 46 No. 2の巻頭言でも触れていますが、平成28年熊本地震から6年が経ちました。この6年間、熊本県は1日も早い復旧・復興を目指し全力で取り組んできました。各方面の多くの方々の御助力により創造的復興は目に見える形で着実に進んでいますが、まだ「被災された方々のすまいの再建」が課題として残っています。また、一昨年7月豪雨では県南地域を中心に甚大な被害が発生しました。こちらの方も、流失した橋梁の仮橋設置等、徐々にインフラの復旧が進んでいますが、創造的復興への道のりは長く続いています。これら自然災害がいかに大きく、またそれからの復興にいかに多くの時間と労力を必要とするのか改めて思い知らされます。

そのような中、2月にロシアが隣国のウクライナに軍事侵攻するというニュースが飛び込んできました。それ以降、同国内の各地で激しい戦闘が続いており、北部地域をウクライナ軍が奪還した後、戦場は東部地域に移り、現在、膠着状態が続いているようです。連日、死者何人という悲しい報道とともに同国内の被害状況の映像が流れおり、心を痛めている方も多いものと思います。もしこの軍事進攻がここで終わったとしても、これまで流された血と涙の上に、今後、復興のためにいったいどれだけの汗を流さなければならないかと考えると、今回の軍事侵攻の愚かさがよく分かります。先に述べました自然災害からの復興の途中である本県としましても、自然災害と戦争被害という違いはありますが、同国民の悲しみとこれからのさらなる苦難は他人事とは思えません。

ところで、今回のロシアによるウクライナ侵攻に関する報道の中に、この侵攻によりエネルギー消費が爆発的に増加し、気候変動を加速させるという内容を見つけました。確かに、兵器の製造や輸送には多くのエネルギーを必要とし、また、弾薬の爆発だけでなくそれにより引き起こされる火災に伴い大気中にCO₂が排出されます。さ

らには戦後の復興には多くのエネルギーが必要であることを考えれば、今後、さらに大量のCO₂が大気中に排出されることは想像に難くありません。また、今回の軍事侵攻により同国内で環境破壊が行われており、今後の戦後の復興の過程で、今回の戦争に起因する環境問題が顕在化してくることも考えられます。

このように考えれば、我々が一翼を担う環境行政がいかに平和の上に成り立っているかということ、そしてそれまでの環境対策の効果が、たった一つの誤った判断で帳消しになるということを改めて思い知らされます。平和を願うとともに、行政に携わる人間の一人として、判断する内容の差はありますが、適切な判断の重要性を改めて感じています。

話題は国内に戻しますが、新型コロナウイルス感染症は、より感染力が強い株へと変異を続けながら猛威を振るい続けています。当所では、これまでの職員削減のあとを受け、私が入庁した頃の2/3まで職員数が減っており、そのため所内他部署の職員のあるいは所外職員を融通しながら網渡りの検査体制を続けています。この応援職員には環境部署の職員が多く、環境調査や事業場監視調査等に少なからず影響が出ています。コロナ禍ではコロナ検査優先のため環境分野が後回しにされがちですが、県民の健康の保護という点では、その重要性は何ら変わりません。今後も本県の環境保全に関する科学的・技術的の中核となる試験研究機関として調査研究に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、協議会の会員機関の皆様には、環境問題の解決に向け、日々調査研究に御尽力いただくとともに、日頃から本協議会の活動に関しまして、ご理解、ご協力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年度の協議会の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、残念ながら大きく制限を受けることとなりました。本年度の協議会の活動も制約を避けることはできないものと捉えておりますが、できる限り充実した活動となるよう努めていきたいと考えております。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。